

○第4回長門市部活動改革推進協議会 会議録（概要版）

日時：令和5年8月21日（月）午後6時30分～午後7時50分

場所：長門市役所4階会議室

出席者：協議会委員14名、オブザーバー1名、事務局7名

■会長

議事に入る前に、第3回から第4回部活動改革推進協議会開催の期間に、県内で教育長等が集まる会議が何度かありました。また、全国の教育長との協議もオンラインで協議する機会もありました。

今の進捗ですが、国がトーンダウンしたこともあって、全国でもなかなか進んでいない現状。進んだ自治体であっても、合同部活動の場合、バスでの送迎を行っており、その学校は実質1件ということで補助を受けている。補助金がなくなってしまうと、どうなるかという不透明な部分があると他県の教育長が申し出ていた。

県内では進捗、クラブ移行のやり方も違っている。今、大きく壁にぶち当たっているというのが県内の現状。長門市においては、何度も言っているが、国の部活動改革をうたわれる前から、中学校の部活動の選択肢がないということに対して、多くの市民や子どもたちから何とかしてほしいと声が上がっている。合同部活動を何とか実現してほしいという願いがあった。また大津緑洋高等学校が部活動をバス移動で運用している現状を、市民が見ていたので、合同部活動ができないだろうかという声がずっとあった。

今回は、忌憚のないご意見を頂くために、グループ別に協議をしたいと思います。

部活動地域移行の体制について事務局から説明をお願いします。

■事務局より説明

4 パターンを示しての説明

Q1 クラブ移行開始時点でどのような形が望ましいか。

Q2 周辺校で個人競技を実施するなら、どういった競技が良いか。

Q3 移動や会場、活動の単位種目など全般について意見交換をしていただきたい。

主にQ1とQ2について、グループ討議をして、ある程度まとめた意見を、全体会の中で発表していただきたい。

□パターン1から4の説明。

本市の12歳以下の中学校区の人口というのを出しているのですが、これを参考に、今後10年後くらいまでの各中学校の推移を、把握していただきたい。10年後には、中学1年生でみると、272人が120人になっていく。中学校区別に見ると、特に西部の中学校が、1学年20人を切ってくる年が増えていく。1校単位の人数が50人前後になる。東部の中学校も、1学年が、20人～30人になる。深川中でも、現在1学年100人いるが、80人、70人と減っていき、将来的には60人まで減少していく様子が見てとれる。

●パターン1について説明。

深川中学校に各学校から移動する。赤い矢印を示している。

移動のラインと、それを要する時間。一番長いところで菱海中から深川中まで30分をみている。団体競技（野球、バレー女子、バスケ男子、吹奏楽）と個人競技を赤字にしている。各学校で個人種目は『要選定』としているが、『要選定』に入れていない種目、個人競技をしたい場合は、深川中への移動となる。

こういった想定をした場合、各学校から約50%の人数が、深川中に移動すると仮定し、令和7年度の生徒数を予測して入れると、三隅中から47人、仙崎中から73人、菱海中から32人、日置中から33人が移動することになる。

深川中の279人に、各学校から来て、活動する場合、約450人となり、大勢の生徒が深川中で活動することになる。

パターン1はシンプルで分かりやすいが、移動人数が多く、バスに限界がある。

また、深川中学校施設のキャパの問題が生じる。昔は多くの人数がいたと思うが、深川中の部活動の様子を見学したが、種目によっては、非常に窮屈に感じた種目があった。

各パターンを考える中で、施設のキャパ、移動人数、移動時間。また、会場ごとへの指導者派遣などを考えていくが、統一的な見解、共通認識のところで、経済面、効率性、将来的な生徒数の減少等を見ながら、パターン1から4について、こういった形が良いのか、検討していただきたい。

パターン1について、スタート段階では、1年生から3年生を含めて651人の生徒数を考えると、厳しいのではないかと思う。

●パターン2について説明。

東（仙崎中、三隅中）と西（深川中、日置中、菱海中）に分け、クラブを分けるというパターン。

三隅中と仙崎中を東クラブとして、団体競技、個人競技を行う。西クラブについては、深川中学校を拠点校として、日置中、菱海中から、団体競技、他の個人競技について移動して行うというもの。日置中、菱海中にはそれぞれ個人競技種目を置くという形。問題はクラブが二つできること。事務局が2つになり、指導者の人数が増え、練習会場も増える。また登録関係も東クラブと西クラブになる。

東クラブのイメージでは、競技を双方で行う。例えば今月は三隅中で野球、バレーを行い、仙崎中ではバスケ、吹奏楽等、双方向で、会場をチェンジするようなイメージで、移動する月、移動しなくてよい月がでてくるという感じになる。移動バスが2台、お互いに出し合うというイメージで想定している。

東と西で、地区予選となり、東西対抗のようなものとなる。生徒によっては東クラブがいい、西クラブがいいという問題がでる可能性がある。東クラブの指導者はいいけど、西クラブの指導者はよくないという話になる可能性もでてくる。

●パターン3について説明。

■会長

どのグループも時間が足りないという状況だったが、各グループでこういった話があったか意見等を出していただき、また、その意見を今後の材料にしていきたいと思う。

■委員（Aグループ）

時間が足りなかった。小グループで話合うと、意見をたくさんいただける。

まず、パターン 4 でスタートする。現在の形に近い。生徒数の動向を見ながら、将来的にはパターン 1 を目指していく形になるのではないかと思う。ただ移動問題、生徒のキャパ問題等多くの問題がでてくる。

周辺校での個人競技だが、基本線としては、各学校で今ある個人競技を残しつつ、生徒のニーズも見ながら、新たに個人競技を立ち上げる。

その他の意見としては、個人で選択できる幅を広くし、個人レベルのニーズに応じた選択を可能とする。例えば、ハイレベルな指導を望む場合は、クラブチーム等を勧めていく。これから考えないといけないのは、前回も話が出たが、これから我々が立ち上げようとしているものが、部活動ではない。部活動色をとっばらって、別の活動を立ち上げようとしている。

このことを保護者、地域にもしっかり周知する。指導者については、教員から地域の方へ変わることをしっかり理解していただく。地域の指導者からすると、部活動をそのまま背をわないといけな。そのようなイメージが強いとするならば、荷が重たいという話もできた。また、それぞれの委員の意見をいただいたが、まだまだまとまらないという形だった。

■委員（Bグループ）

たくさんのいろいろな意見が出てなかなかまとまらない、というようなところがあった。

パターンとしては、最終的にはパターン 1 になっていくのだと思うが、いきなりでは混乱を生じるので、スタート地点は、パターン 2、3 が良いのではないかという意見が出た。

パターン 2 はある程度すっきりしていて、混乱が少ないのではないかという意見が出た。ただ東西に分けた場合、競争が生まれるが、子どもがどちらかを選べるとなった場合、指導者関係（指導力のある方、そうでない方等）でトラブルが起きる可能性があるのではないか。

柔軟性を持たせる意味でも、東西 2 クラブあり、選べるということは良いのではないか。

最終的にはパターン 1 になると思うが、令和 7 年度から急にパターン 1 の地域移行となると大変だと思う。

徐々に移していくというような発想も必要かなという意見があった。市内では、ラグビー、相撲クラブの起ち上げを検討しているといった動きもあるようで、そういった情報もしっかり集めて、応えていく必要があるのではないか。それから個人競技だが、ほとんど話す時間がなかったが、ソフトテニス、卓球という意見が出た。

■委員（Cグループ）

Q1 のどのパターンが望ましいかということで、結論からいうと2か4が現実路線ではないかという意見だった。

Q2 の周辺校個人競技をどうするのかという話だが、菱海中の現状でいうと、菱海中は個人種目がない。残るとしたら、今地盤としてある、剣道、陸上を指導している方がいらっしゃるので、地域によって、新しく立ち上げるのではなく、その指導者の方々が、一緒にやってもいいよという形になれば、選択路線もあのではないか。

Q3 だが、多くの要素があるので、どれを優先するか、特に、指導者の確保、誰が指導するのか。ここは切り離せないのではないか。もちろん、移動等の問題もあるが、どう確保していくのか。形を作ってもそこがないと苦しくなるのではないかという意見がでた。

■委員（Dグループ）

パターン3は現実的に難しいのではないか。現実的な選択として、パターン4から始め、パターン2から1へ段階的に移行していくのかな。その際に、移行・変更があり得るということを最初にしっかりアナウンスしていかないと、なかなか途中の変更は難しくなってくるのではないか。現実的に、移動手段のバス代であるとか、私たちが思う以上にお金が掛かるという意見もでた。

競技力の維持を考えた時に、最初は可能な限り、複数の場所があった方が望ましいのではないかという意見がでた。ただし、大前提として、それぞれに指導者がいるということ。

Q2 の、個人競技については、卓球であれば可能ではないかという意見がでた。案として、パターン4の場合、例えば三隅中と仙崎中で卓球の男女の会場を分けるといったことも考えられるということもあるが、指導者がいるといったところが大前提となる。

他に、各学校に残すレクリエーションクラブ、その位置づけ、そこにも指導者がいる。もしかしたら、その部分を教員が担う可能性もあるのではないだろうかという課題もでた。

■会長

ありがとうございました。

以上、それぞれグループから具体的な意見、課題を指摘していただいた。最初に確認事項として、これは今までやってきた部活動を地域にそのままお願いするという考えではなく、部活という発想から離れていこうという動き。という確認をした。

その中で当然、この活動に参加する、しないはもちろん自由であるし、今までやってきたクラブチームにそのまま所属したい。また、塾等で勉強を一生懸命極めようとしているなど、それはそれで優先してもらって良い。もう発想の転換を図らなきゃいけないということも大前提として示した。

スポーツ協会からも様々な競技に親しんでいる大人の方、この方々のご協力を得られやすいように、レクリエーションクラブ、新たな動きもあるようなので、しっかり見ながら進めていかなければならないが、アウトラインはきちんと決めなければならない。指導者のこともあるので少し急いでいる。

今回いただいた意見を精査し、事務局の方で新しい具体的な案を示したいと思う。

■事務局

次回の協議会は、10月に予定している。

以上で第4回長門市部活動改革推進協議会を終了いたします。大変ありがとうございました。